



# あのときの常呂・写真館

VOL 167

(1964年)

## 昭和39年10月25日 原孤葉句碑建立除幕式

▶「広報ところ」12月号の「まちの話題」コーナーで、「観光にも一役…サロマ湖畔に原さんの句碑」の見出し・リードに続き、「中央公民館長、原紋蔵さんの長い俳句歴をたたえて町文化連盟や蛙声会などが中心になって建立された句碑の除幕式が10月25日、栄浦の現地で行われ…道内の有名な俳人や管内の名士、関係者約60人が参加…建立を祝い…かき島荘で盛大な祝賀会や全道俳句大会が開かれ」と綴っています。●この句碑の建立に関わる経緯や原孤葉（原紋蔵）の俳句の魅力については、常呂町文化連盟機関紙「新墾（にいばり）」第4号（昭和39年7月20日）と第5号（昭和40年3月20日）に詳しく載っています。●原孤葉（原紋蔵）の経歴を自身の句集『孤』（昭和41年11月発行）から抜粋して紹介すると、明治29年滋賀県生まれ。大正4年、斜里村書記として公務員生活をスタート。大正7年、網走町書記、網走の俳句会「網走十七美（となみ）会」に入会。俳句歴のスタート。昭和4年、網走町収入役、11年、同町助役。14年に常呂村村長として赴任し、蛙声会に入会。毎月例会、会員約15人。23年に戦時中中断していた蛙声会を復興。24年に句集『蛙声』第1号、25年『蛙声』第2号を発刊。蛙声会の中心的な役割を果たしていました。●戦後の公職は、20年7月から21年5月まで常呂漁協勤務、22年から25年まで公職追放。27年、教育委員会勤務、29年8月から39年9月まで教育長。10月から中央公民館館長とあります。●この句碑は、かつてのサロマ湖畔キャンプ場にありましたが、現在は鶴雅リゾートと旧越中屋に挟まれた湖畔にあります。

\*句碑に刻まれていく句は

鮭曳の唄よ

日が落つ風の中

\*句の選考は、関係者が原孤葉自選の70句から分かりやすく、ローカルカラーがあり、互選で最高点を得た上記の句としたとあります。

（「新墾」第5号）







\*この3枚は、句碑除幕式  
氷雨の中での式でした

\*左：原紋蔵夫妻



昭和40年5月16日の町民ピクニック

\*ボーイスカウトの集団の奥に

原孤葉句碑が見えます